

くじら日記

太地町立博物館から



県南部に位置する太地町の美しい海岸と緑に囲まれた風光明媚な入り江に広がるのが、51年の歴史を持つ太地町立くじらの博物館です。

毎年ゴールデンウィークにはたくさんのお客さまでにぎわうのですが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月13日から2度目の臨時休館措置をとり、スタッフ以外の気はなく閑散としていました。

しかし、耳を澄ますと「キユキユイ」といった愛くるしい鳴き声や「ブフォー」といった豪快な息遣いが聞こえ、海面に目を向けると水しぶきとともに巨体が姿を見せます。その正体は、ここで生活する約40頭のクジラの仲間たち。休館中も、彼らはいつもと変わりなく泳ぎ回り、遊び、たくさんのお餌を食べています。その彼らの世話をする

9種 40頭の仲間たち



休館中のくじらの博物館で、クジラに餌をやる飼育員ら—太地町

1日に食べる餌は20キロ超

飼育スタッフもまた忙しい日々を送っています。

今回は当館で生活するクジラがどのような生き物か簡単にご紹介したいと思います。

クジラは世界中で約90種確認されており、口の中にヒゲを持つヒゲクジラと、歯を持つハクジラに大きく分かれま

す。ヒゲクジラは比較的大型種で、皆さまがクジラといっ

て思い浮かべるのはおそらくこの仲間だと思えます。

当館が飼育展示する9種（ゴビレゴンドウ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、カズハゴンドウ、バンドウイルカ、シワハイルカ、カマイルカ、スジイルカ、マダライルカ）は、いずれもハクジラの仲間です。

比較的小型の種類ですが、それでも、当館で一番大きいクジラは体長4・3メートル、体重

は610キロ、1日に食べる餌の量は20キロを超えます。

そんな大食いのクジラたちに毎日餌を用意して与えるだけでも、1日の大半を費やしてしまいます。おまけに一生を水中で暮らす彼らのお世話は、体力的にも金銭的にも相当大変なものです。

くじら日記では、クジラと向かい合う飼育員たちの日々の奮闘と、クジラの魅力をたっぷりお伝えしたいと思います。

（太地町立くじらの博物館 副館長 稲森大樹）

◆ 太地町立くじらの博物館は昭和44年4月に開館し、丸51年を迎えました。全国でも珍しいクジラのショーを楽しめる水族館として知られています。現場のスタッフが魅力を紹介していきます。